

会 議 結 果

会議名 (審議会等)	平成30年度 第1回高砂市子ども・子育て・若者会議
開催日時	平成30年 9 月 6 日 (木) 18:30~20:40
場 所	高砂市役所 南庁舎5階大会議室
会議公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 (傍聴者定員数: 10 人) (傍聴者数: 0 人) <input type="checkbox"/> 非公開 (非公開理由: (例) 情報公開条例第7条の規程に該当するため。等)
事務局 (担当課)	こども未来部 子育て支援課 (TEL 079-443-9024)
議 題	(1) 子ども・子育て・若者支援プランの進捗状況報告について (2) 30年度スケジュールについて (第2期子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査について) (3) その他
出席委員	15 名
結 果 (議事録又は議事概要)	
発 言 者	内 容
子育て支援室長	会議の開会の前に、本日の会議資料のご確認をしていただきたいと思います。 【資料の確認】 1 開 会 それでは、定刻となりましたので、平成30年度第1回高砂市子ども・子育て・若者会議を開会いたします。開会に先立ちまして、当会議の公開についてですが、高砂市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、公開とさせていただきます。なお、本日の傍聴者は0名ということで報告を受けております。次に、子ども・子育て・若者会議委員の委嘱でございます。本来ならば、高砂市長 登 幸人より委員の皆様お一人お一人に交付させていただくところでございますが、議事の進行上申し訳ございませんが代表に交付

子育て支援室長	<p>をさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>2 委嘱式</p>
子育て支援室長	<p>ありがとうございました。そのほかの委員の皆様には、失礼ではございますが机上に委嘱状を置かせていただいております。ご理解、よろしくお願いいたします。続きまして、第1回子ども・子育て・若者会議の開催にあたりまして、高砂市長 登 幸人より一言ごあいさつを申し上げます。登市長、よろしくお願いいたします。</p> <p>3 市長あいさつ</p>
市 長	<p>皆様、こんばんは。高砂市長の登でございます。本日は平成30年度の第1回目でございますけれども、高砂市子ども・子育て・若者会議に出席を賜りまして、誠にありがとうございます。平素から、皆さん方には高砂市政をはじめとして、特にこの子ども・子育て・若者、この施策についての充実につきまして、多方面からご意見あるいはご指導等賜っておりますこと、この場をお借りいたしまして厚くお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。そして、ただ今、委嘱状をお渡しさせていただきました。また、今日より子ども・子育て会議委員として皆さん方のお力を借りたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。もう既にご承知のように、この子ども・子育て・若者支援計画を策定しておりまして、さまざまな施策を実施しております。特に子ども・子育て支援計画、支援プランにつきましては、160項目を超える項目があったと思います。それらの項目の中で評価を、29年度のまた報告をさせていただきたいと思っております。この中で見ますと、A評価が5つぐらいだったと思いますが、あとは全部B評価と、それでいいのか悪いのか、良かったのか悪かったのか、またご判断をしていただきたいと思いますし、また、ひとり親家庭、自立促進、その計画につきましてもそれぞれの施策30項目を超えておりますけれども、これについても評価をさせていただいたところでございます。これについてはA評価が3ということで、あとはB評価ということになってございます。さまざまな観点からの施策でございますので、それぞれの項目ごとに課題あるいは問題点があるかと思っております。この掲げた施策、行動計画ということになりますので、やはり掲げた以上は全部実現をするべきであると思っておりますし、また、したいというふうにも思っておりますので、どこにBとしか評価でき</p>

	<p>なかったのか、Bが良かったかどうかは別にして、できなかった、A評価にならなかったのかということも、しっかりとまた議論をしていただく、またご意見等を伺う、そしてまたそれを参考にさせていただいて、市としてまた次の施策展開に役立てていきたいと思っております。このことを繰り返しながら、より良い子ども・子育てあるいは若者の皆さん方の住みやすいといえますか、活動しやすいまちになればなど思っております。そしてまた、この計画も5年計画の、31年が期限の年度でありますけれども、次の計画に向けてまた策定準備に入りたいと思っておりますので、また皆さん方の忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。本日夜刻からの会議ということで、大変お疲れのことだとは思いますが、どうぞよろしくお願いを申し上げまして、冒頭にあたりましてのあいさつとさせていただきます。本日はどうもご苦労様です。ありがとうございます。</p>
<p>子育て支援室長</p>	<p>市長、ありがとうございました。引き続きまして、本日ご参集いただきました委員の方々のご紹介ですが、自己紹介にてお願いいたします。それでは、順番にお名前と一言ずつご紹介をお願いいたします。よろしくお願いいたします。</p>
	<p>4 委員紹介</p> <p>委員が順番に挨拶</p>
<p>子育て支援室長</p>	<p>ありがとうございます。また、本日欠席されている委員の方のご紹介をさせていただきます。3名の方欠席をもらっております。なお、2名が少々遅れるということで聞いてございます。よろしくお願いいたします。次に、市の出席者を紹介させていただきます。</p>
<p>子育て支援室長</p>	<p>市長から順番に事務局挨拶</p> <p>ここで恐れ入りますが、市長は他の公務がございますので退席をさせていただきます。</p>
<p>市長</p>	<p>どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
	<p>5 子ども・子育て・若者会議条例について</p>

<p>子育て支援室長</p>	<p>【資料①の説明】</p> <p>本会議は、国が定める子ども・子育て支援法に基づき、教育・保育施設の利用定員や本市の子ども・子育て・若者支援プランの策定、変更、進捗管理、また、本市における子ども・子育て支援及び若者に関する施策を総合的かつ計画的な進捗状況について調査・審議をするためという目的を持って設置をしております。高砂市における子どもと子育て家庭及び若者の事情を踏まえまして、子どもたちが安心して健やかに育ち、若者が社会生活を送るうえで困難を感じることをないように自立し、全ての家庭が安心して子育てができるようなまちづくりを進めるため、ご審議いただく場となっております。また、第4条の委員についてですが、教育・保育・子育て支援の従事者のほか、学識経験者、子育て・若者の当事者、労働者の代表者、企業の代表者などで構成をしております。</p> <p>6 委員長、副委員長の選出</p> <p>会議条例第5条第1項により委員長及び副委員長は委員の互選となっているため、委員長1名、副委員長2名の選出を事務局から提案し、異議なしにより承認。</p> <p>【委員長、副委員長あいさつ】</p>
<p>子育て支援室長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、議題に入る前に、本日、委員の20名のうち15名の委員に出席をいただいております。出席者数が過半数となりましたので、高砂市子ども・子育て・若者会議条例第6条第2項により、会議は成立しておりますことを報告申し上げます。これより、会議の進行は委員長にお願いいたします。</p> <p>7 部会の設置について</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、早速ではございますが、部会の設置について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>子育て支援課長</p>	<p>高砂市子ども・子育て・若者会議条例の第7条、会議に、部会を置くことができる、と定めております。部会としまして、子ども・子育て部会と若者部会の二つの部会を設置し、子ども・子育て部会につきましては、子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て</p>

	<p>て支援計画についてと、母子及び父子並びに寡婦福祉法に基づく自立促進計画についての進捗状況を、若者部会につきましては、子ども・若者育成支援推進法に基づく若者支援計画についての策定や見直しについての進捗状況などについてご報告させていただきたいと思っております。部会の設置については以上でございます。</p> <p>事務局からの説明が終わりました。ただ今の説明につきまして、ご意見・ご質問等ございましたらお願いいたします。ないようですので、次に行かせていただきます。会議条例第7条第2項によると、部会に属すべき委員は、委員長が指名、とありますので、ここで僭越ながら指名させていただきたいと存じます。本日、配布しております資料③をご覧ください。部会の振り分けは資料の通りとなります。ご質問・ご意見はございませんでしょうか。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>8 部会長、副部会長の選出</p> <p>会議条例第7条第3項により、部会長は委員の互選となっているため、子ども・子育て部会、若者部会それぞれ部会長、副部会長の選出を事務局から提案し、異議なしにより承認。</p> <p>【各部会長、副部会長あいさつ】</p>
<p>委員長</p>	<p>続きまして、議題に入る前に子ども・子育て・若者支援プランについて、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>子育て支援課長</p>	<p>【高砂市子ども・子育て・若者支援プランの説明】</p> <p>昨年この会議でご意見をいただきまして策定できました計画となっております。5ページの第4章「計画の期間」の表の一番上のところ、I 子育て支援というところに平成27年度に策定しました高砂市子ども・子育て支援事業計画がございます。こちらが27年度から5か年の計画となっております、昨年中間見直しに合わせまして、それまで別に策定しておりました、II ひとり親家庭等自立促進計画、新たにIII 若者支援の計画を一体化した計画としまして、一番下の統合プランとしまして高砂市子ども・子育て・若</p>

	<p>者支援プランを策定したものでございます。その中の子ども・子育て支援事業計画についてですが、今年度アンケート調査を行いまして、来年度第2期の計画を策定することとなっております。また、Ⅲの若者支援の計画につきましては、県下でもまだ策定している市が少なく、昨年若者の生活実態を把握する調査を行い、ニートやひきこもり等の社会生活を円滑に営むうえで困難を有する若者の自立に向け、相談体制の充実や支援機関との連携強化を図ることを目指し、策定しております。この後の議題で計画の進捗状況等をご報告させていただく予定となっております。子ども・子育て・若者支援プランについての説明は以上でございます。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、議題に入りたいと思います。議題（１）子ども・子育て・若者支援プランの進捗状況報告について、事務局から説明をお願いします。</p>
	<p>9 議 題</p> <p>(1) 子ども・子育て・若者支援プランの進捗状況報告について</p>
<p>子育て支援課長</p>	<p>【資料④・資料⑤・資料⑦の説明】</p> <p>新規の取り組みや評価の特に良かったものと悪かったものについて、抜粋して説明。</p> <p>資料④の1ページ、施策番号が1-1-1-5「利用者支援事業の充実」、新規事業となっております。身近なところで気軽に相談ができるよう、支援センターのイベントなどに出向いて相談等を行っております。6ページ、施策番号2-1-1-7、こちらが今年度からの新しい施策となっております。資料⑦のほうを見ていただけますでしょうか。【資料⑦の説明】</p> <p>9ページ、施策番号3-1-2-1「保育士の確保」、29年度初めて説明会を行ったというところで、A判定をしております。11ページ、施策番号3-3-1-6「料理教室の実施」、こちらは当初、予定回数としまして8回であったところを14回開催し、参加人数も大幅に増えているため、A判定としております。13ページ、施策番号4-1-2-3「遊び場の充実」、29年度の実績としまして地元の良い借地広場がなかったため、借地広場の要綱策定に至らなかったということで、判定としましてはCとなっております。18ページ、施策番号5-2-1-5「病児保育事業の充実」、30年度より新たに送迎サービスの実施を行っております。この送迎サービスというのは、保育園等で子どもさんが病気で、例えば親御さんに熱があるので迎えに来てほしいというようなときに、お仕事の関係とかでど</p>

<p>幼児保育課長</p>	<p>うしても迎えに行くことができないような場合、先に病児保育所（すくすくひろば）へ登録をいただいていると、連絡をすればそこから看護師や保育士が保育所のほうまで迎えに行き、病児保育所で預かるというようなサービスになっております。全国でもこのサービスは実施されているところが少なく、県下でも初めての事業となっております。続きまして、施策番号 5-2-1-7 「3歳児教育の推進」、こちらは民間では以前から実施されておりましたが、29年度から初めて公立で1号認定の3歳児の受け入れを始めましたので、A判定としております。19 ページ、施策番号 6-1-2-2 「養育支援家庭訪問事業の推進」、当初の見込みよりも需要が大変多かったことと、期間が大変長かったことで補正予算も行き、サービスの提供を行っております。こちらがA判定としております。続きまして、施策番号 6-1-3-1 「要保護児童対策地域協議会の充実」、当初予定はしていなかったのですが、医療機関と連携を深めることで虐待の早期発見につながるというところで実施をしており、A判定をしております。20 ページ、施策番号 6-1-5-1 「児童養護施設設置への支援」、30年度に入りまして県の開発許可が下りまして、来年4月1日に阿弥地区のほうで養護施設の開設が行われる予定となっております。続きまして、施策番号 6-2-1-1 「『子ども食堂』立ち上げに関する支援」、29年には米田地区の飲食店の店舗で1か所と、曾根地区で定点化、定期的に子ども食堂を行うことにつながり、子どもの居場所づくりを推進する支援となり、A判定にしております。22 ページ、施策番号 6-3-3-1 「障害児通所支援等の支援」、こちらはサービスの利用が前年と比較すると約30%増加しているということで、A判定となっております。</p> <p>次に資料⑤の3ページ、「保育所の入所促進」、29年度よりひとり親世帯の第二子の保育料を減額したことにより、A判定としております。4ページ、「母子自立支援員等による相談の充実」、この相談につきましては児童扶養手当の更新時など、相談コーナーを設け、気軽に相談できるよう体制を取っております。休日相談日も設けて対応を強化しているので、A判定としております。</p> <p>【資料⑥の説明】</p> <p>現在高砂市では教育・保育を一体的に行う認定こども園への移行推進をしております。公立におきまして、幼稚園4園、保育所4園、認定こども園が4園の計12園となっております。このうち、伊保幼稚園と梅井保育園が一体化し、31年度より認定こども園へ移行いたします。また、曾根幼稚園と曾根保育園及び米田幼稚園と米田保育園も、32年度にそれぞれ一体化し、認定こども園へ移行する予定でございます。民間の施設におきま</p>
---------------	--

	<p>しては、保育所が4園、認定こども園7園となっており、このうち、子供の園保育園ときくなみ保育園が、それぞれ31年度に認定こども園へ移行いたします。</p>
<p>子育て支援課長</p>	<p>続きまして、高砂市若者支援計画について担当から説明をいたします。</p>
<p>未来戦略推進室 主幹</p>	<p>【資料⑧の説明】</p> <p>若者支援計画に基づきまして、今年度以降若者への支援として取り組んでいく施策を一覧にまとめたものです。若者支援につきましては、平成30年度からの実施でありますので、29年度の実績報告や評価はございませんが、このシートによりまして、今後各施策の進捗管理を行って参ります。施策番号1-1-2「若者相談支援情報の発信」として、支援情報を分野別にわかりやすくまとめた相談窓口一覧を、広報たかさご6月号に保存版として掲載し、全戸配布しております。また、これを12,000部作成し、夏休み前に市内の小学校、中学校、高等学校の全児童生徒に配布の依頼をしております。</p>
<p>委員長</p>	<p>事務局からの説明が終わりました。ただ今の説明につきまして、ご意見・ご質問等ございましたらお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>意見というか感想になるが、産後ケア事業のことについて、今日の新聞にも出ていたけども、産後うつの問題がすごく取り上げられていて、私の娘も子どもを産んだところなので、すごく興味を持って見ていました。自殺、産後で自殺という死因が一番多いということを知って驚いたのですけれど、そういうことをケアする意味でも産後ケア事業というのはすごく新規事業として高砂市が取り組むということで、素晴らしいなと思ったのです。ここは施策を話し合う場だということは重々わかっているのですが、最近お金のことも気になっていまして、産後ケア事業についてはホームページを見ますと400万円以上の予算があって、病児保育事業、昨年837人が利用ということで、大変な利用があると思うのですが、それが平成30年度の予算で見ますと96,000円。高砂市の出した分は32,000円だけということで、産後ケア事業については利用者がすごくお金を支払いますね。いろいろ補助はあると思うのですが、ところが、病児保育事業については96,000円という感じで偉く差があるなというふうに率直な感想なのですが、そう思ったのですが、それについてどういうことなのかなというのを教えていただけたらと思います。</p>

子育て支援課長	<p>まず、病児保育の関係なのですけれども、この96,000円というのは送迎サービスについての加算についての金額になっておりまして、病児保育事業についてはまた別で、国の基準がございまして、もっと大きな金額で補助を行っています。この送迎サービスに関しての部分だけが96,000円という形で加算という形で今年新規事業で、実際この送迎サービスを行っていただいた実績に対して補助をするというところなので、初年度です。で回数の見込みがまだ立てられないような状況となっております、金額が少ない状況となっております。</p>
健康増進課長	<p>産後ケア事業につきまして、今年度から実施させていただくようになりました。こちらについては、先ほどもお話がありました、産後うつということの予防というところで、もう産後うつになられている、それに近い状態の方につきましては、ちょっとこの事業の対象から外れてしまうというところではありまして、それに近づかないように、特に支援の手がなく、あと、出産後不安の強い方が早期に利用していただく事業ということでこの位置づけをさせていただいています。あと、一部負担金という形でチラシのほうにも入れさせてもらっているのですけれども、こちらにつきましては国のほうの産後ケア事業のガイドラインというのがありまして、そちらのほうでも利用者から利用料を徴収するというふうなところでの位置づけがされておりまして、また、各市町村既に実施しているところも先行してあったのですが、そちらの市町村のほうも参考にさせていただきまして、この産後ケア事業、2市2町のほうで同じような形で現在4月から実施させていただくような形となっております。</p>
委員長	<p>産後については経験者ですけれども、第一子のときは非常に不安でございます。そういった施策があると非常に助かるなというふうに思います。ほかにご意見がありますでしょうか。</p>
委員	<p>送迎サービスのお話がありまして、私、非常に素晴らしいサービスを提供されているなと思って非常に感銘を受けております。参考までに、先ほど加算が96,000円ということだったのですけれども、利用した場合、利用者の負担というのはいほどのぐらいに設定されているのか、お聞きできたらと思います。</p>
子育て支援課長	<p>送迎については、基本的にはタクシーを使っの送迎という形になっているということ</p>

	<p>で、タクシー代については自己負担をしていただくという形ですが、送迎サービスについては高砂市内の方であれば無料という形になっております。</p>
委員	<p>そうしますと、すすくひろばさんから遠い保育園に行っている場合には、非常にタクシー代がかかってしまうということですか。</p>
子育て支援課長	<p>はい。実費の負担をしていただいております。</p>
委員	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>
委員長	<p>ほかにご質問お願いします。</p>
委員	<p>内容とはそれほど関係ないのかもしれないですけど、この評価のあり方について、私も保育事業をさせていただいて本当に担当課の皆さんすごく頑張られていて、すごくフォローアップしてくださるのですけれど、その中で評価というのがABCDEというふうにあって、自分的にはよく頑張られているのにな、というのでAでもいいのではないかなという思いもすごくあるのですが、これはAとBの間とか、特にBとCの間が、Bが予定通り進捗している、Cがかなり遅れているということはCを評価できないのではないかなというふうにちょっと思っていて、AとBの間とかBとCの間、余り段階が多くなりすぎるとちょっと大変なのかなとも思うのですけれど、ちょっとこの辺改善できないのかなというのをちょっと思ったのですが、いかがでしょうか。</p>
子育て支援課長	<p>はい。この5段階評価につきましては、まず前年度からなのですけれども、その翌年の取り組みの方向性というものの計画を立てまして、それについて予定通り進捗している、前向きに取り組んで、取り組みの方向性を決めておりまして、それに対して予定通り進捗しているというBであれば前向きに進んでいるというような評価になるのかなと思うのですが、A評価については予定以上にもっといろいろな事業とか施策について取り組んだときにはA判定としております。この境目というのはなかなか難しいのですけれども、予定以上に進んでいけばA判定、担当課の主観的な見方ということも出てきちゃうかもしれないのですけれども、先ほど言われました狭間のところについては、いろいろな担当課がございますので、話し合っって検討していきたいと考えます。</p>

委員長	いかがでしょうか。
委員	<p>できれば、BとCの間に、少しだけ遅れている、というのがあれば、担当課の方頑張られているので、それが責められるとかではないと思うのですが、こちらの委員の皆さんが見たときに評価というところだけで言うと、ほぼBにしかならないというような状況なので、評価シートと言いながら評価になっているのかなという何となくの疑問なのですけどね。そういうのがあればなということと、Aまで行かないのだけどBのかなり進んでいるよというような言い方もあっていいのかなと。そうしたら、これはすごくうまくいっているのだなというのがわかるので、僕サイドとすればそのほうが見やすいなと思います。</p>
委員長	はい。ありがとうございました。
子育て支援課長	先ほどのご意見いただきまして、どういった評価のランク付けがいいのか、また検討していきたいと思います。ありがとうございます。
委員長	質問はよろしいでしょうか。
委員	<p>三点質問させてください。一つ目は5ページです。利用者支援事業、2-1-1-2で、フォロー対象者 345 人ということで、非常に多くの方たちのフォローに結び付いていると思うのですが、これは妊娠の届け出をされた方に対して母子健康手帳交付時ということになりますので、高砂市で妊婦健診を受けない、妊娠の届け出をしない、いわゆる飛び込み出産みたいな方がゼロであればこれで全てのフォローというふうになると思うのですが、その辺りのところは数字的にどうだったのかなというのをお聞きしたいのが、まず一点目です。それから、二点目は18ページです。5-2-1-7で3歳児教育の推進なのですが、29年度の取り組みと方向性としては、実施園からの課題分析及び評価という言葉が入っておりまして、29年度実績としてはニーズに応えたところなので、これも課題が全然出てきていないのであればこれで問題ないのですが、何か課題が出ていたのかな、もし出ていたとすればどういう課題だったのかというのを教えていただきたいと思いました。それから、三点目はショートステイがひとり親家庭のところの評価シートに入っていて、私が見落としているのかもしれないのですが、子ども・子育て支援事</p>

	<p>業計画のほうの評価シートにはなかったように思うのですが、ショートステイはひとり親家庭の方しか使えなかったのだろうか。去年も参加しておきながら、その辺をちゃんと覚えていなかったの、合わせて三点よろしく願いいたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。今のご質問にお願いいたします。</p>
<p>健康増進課長</p>	<p>一点目の利用者支援事業につきまして、345人のフォロー対象者がいたという中で、飛び込み出産があったのかなかったのかというところなのですけれども、実際妊娠というのは、やはりお母さんのほうの届け出があって把握ができるものです。こちらからなかなか把握というのは難しいのですけれども、いろいろなところから、あのお母さん妊娠しているかもしれないよという情報などが入ってくる場合がありますので、そういう場合、子育て支援課であるとか健康増進課のほうでその方の妊娠の届け出があったかどうかというところからまず確認のほうを入れまして、お母さん情報のほうで双方から支援のほう、どういう形でしていこうかということで相談したうえ、母子手帳の取得をまずしていただく、妊婦健診の助成のほうの申請をしていただき、医療機関のほうに受診をという形で支援のほうをさせていただきまして、無事出産したというケースは実際去年もありました。有り難いことには、飛び込み出産は昨年度はありませんでした。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。次、二点目お願いいたします。</p>
<p>幼児保育課長</p>	<p>3歳児教育の推進についてのご質問であったかと思います。その中の課題分析及び評価、保護者のニーズの把握ということなのですけれども、この3歳児教育につきましては、公立におきまして28年度より認定こども園4園が開園いたしました。当面3歳児教育についてのニーズ調査ということで、公立の保育所、認定こども園の保護者に対しまして実施についてのニーズ調査を行った結果、やはり行ってほしいという意見が多かったので、29年度、試行的にはあるのですが、認定こども園のほうで3歳児の受け入れを、1号認定の受け入れを開始したということがあります。その中で、幼稚園でしたらどうしても園区というのがあるのですが、認定こども園になってくると園区がないということで、他地区の方が希望の園に行くということも可能であるというようなこともありまして、試行的に実施はさせていただいております。評価についてということが書いてあるのですが、ニーズ調査の結果行ったほうが良いという意見が多かったので、試行的</p>

	<p>に実施させていただいたということです。</p>
委員長	<p>よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>園区が非常に広がったというのが私の記憶の中に残っていて、そういうお声とか出ていたのかなと、ちょっと思ったりもしての質問だったのですが、それがなければ大丈夫です。</p>
幼児保育課長	<p>今は試行実施ということにさせていただいており、実際公立の認定こども園4園でしか実施できておりません。ニーズ量に関しましては、やはりもっと多くのニーズがあったわけで、その残りの方というのがまだちょっと受け入れができていないというのが課題という形かなと考えております。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。それでは、三つ目をお願いします。</p>
子育て支援課長	<p>子育て短期支援事業ということで、ひとり親のほうもございますが、子育て支援計画の18ページの真ん中のところ、施策番号5-2-1-4、こちらにショートステイの施策がございます。対象者としてはひとり親のみではなくて、全ての子どもさんが対象になっております。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>二点質問させてください。一点目は先ほどのすくすくひろばの話、やはりどうしても気になるのですが、私、高砂市の端っこから端っこがタクシーで幾らぐらいかわからなくて、かつ、すくすくひろばさんがどこにあるかもわからないのですが、もしそれが、近いお母さんだったらいいのですが、遠かったりすると結局タクシー代がものすごくかかったりしたら経済悪化する可能性もあって、このサービス、ものすごくいいサービスで、それこそほかの市町村にないのであれば、ここを売りにして、タクシー代は近くても逆に定額で受け取るなどして、もうちょっとタクシー代が障壁にならないように、利用しやすいようにしていただけたらなと感じたのが一点で、これは質問ではありません。二点目なのですが、ひとり親のほうの評価シートの3ページになりま</p>

	<p>す。ここで保育サービスの充実、保育所の入所の促進というのがございます。A評価になっていて、これは非常にいいですね。求職活動中であっても入所できる措置を行うというのは非常にいいなと思いました。これ、ひとり親のみが対象なのか、あるいは夫婦であっても対象となっているのかというのを、ちょっとお聞かせいただけたらと思います。</p>
子育て支援課長	<p>一点目の病児保育のタクシー代についてなのですが、高砂市は市内それほど広くはないのですが、往復、すくすくひろばさんから保育園、保育園からまた帰ってくるということになると、やはり、遠方になると高額になってきて、そこが利用しにくいところというところは確かにあるかと思しますので、ご意見としていただいております。</p>
幼児保育課長	<p>幼児保育課長です。保育所の入所促進のところで、就職支援のために求職活動中であっても入所ができる措置ということなのですが、これはひとり親であろうとご両親いらっしゃる方であろうと、就職活動されている保護者の方ということが対象になりますので、とりわけなくてはならないということはありません。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>一つだけ希望があります。3歳児保育は12時半でお迎えなのですが、2時にしてもらえたら助かります。お願いします。</p>
幼児保育課副課長	<p>3歳児の生活リズムとかで適当な時間というか、給食を食べてからお昼寝をせずに帰っているのですが、3歳児が2時までもつかいと、ご飯を食べた後どうしても眠くなってしまふ子どもたちも多いので、12時半にしています。</p>
委員	<p>私が通っている高砂こども園だけかもしれないのですが、12時半に帰った後、近くの公園で結構遊んだりしているので、いけるかなとか思ったり。</p>
幼児保育課副課長	<p>そうですね。多分そのまま動いていると、そのままもってしまうかなと思うのですが、ほかの2号、3号のお友達はお昼寝の時間に入っているので、そういう静かな場面</p>

	になると、眠くなっていくのではないかなとは思いますが。
委員	ありがとうございました。
委員長	よろしいでしょうか。
委員	本当に確認だけなのですけど、この評価のABCDEですね、AかBかCかを判断されるのは担当課の方の判断ということでよろしいのでしょうか。
子育て支援課長	この評価については、各担当課に評価を依頼しております。
委員	わかりました。ありがとうございました。だから、ほとんどの担当課が予定通り進捗しているというふうな判断でよろしいんですね、このBが多いということは。
子育て支援課長	はい。そうなっています。
委員	ありがとうございます。
委員長	はい。ありがとうございます。
委員	一点要望で、一点質問になります。まず要望からなのですが、この子ども・子育て会議が開催されるようになりまして、本当にいろいろな施策ができて、また昨年度も新たな施策ができていくということで、非常にうれしく思っています。小児科医として、妊娠、分娩とお母さんも大変なので、赤ちゃんを妊娠してから生まれて、今回も産後のケアとあり、お母さん方には非常に充実した支援ができていますが、生まれてきた後の子どもの支援というのが非常に寂しい限りで、高砂市もやっとですけども、一昨年から10か月健診が始まったという次第で、他市に遅れて、というのがあります。ましてや、やはり産後すぐのケアですね、虐待が多いのも産後といわれますし、お母さん方も不安、先ほどもありましたけども、特に初めての赤ちゃんは不安ということで、市町によっては生後2週健診、若しくは生後1か月健診を小児科で受診してという形で助成しているところもあります。また、この4月から保険診療でオンライン診療というのが始まりま

	<p>した。オンライン診療は非常に難しいものがあるのですが、子育て支援にオンライン診療を利用するというような自治体も出てきました。もちろん小児科医がいない、若しくは近くに医療機関がないというような過疎の利用もありますけども、オンライン診療を始めるにあたって、今年度から始まったのですが、子どもについての相談が、小児のオンライン診療で一番多い年齢が0歳で半数ということでした。生まれてすぐというのは、お母さん、お父さんを含めて非常に不安が多いということで、そういうことを子育て支援に利用しようということですね。市町がオンライン診療をしているというのは医療機関であり、東京、関東を含めて小児科のチームを組んでやられています。この辺は医療のあれはないのですが、子育て支援としてサポートする一つの方法として、もちろん2週間の健診も1か月の健診もオンラインの健診も費用は要りますけれど、今は小児科、内科等があり、産婦人科、産婦人科で、お母さんが妊娠した時点からオンライン診療でサポートすると。オンラインは顔が見えないというのがあります。顔が見えないデメリットとメリット、やはり、顔が見えるからいやだという人もありますから、顔が見えないからいろいろなことも気軽に相談できるという、そういうメリットもあると思います。良し悪しなのですが、オンライン診療をしている自治体もありますし、今後どういう形で進展していくのかわからないのですが、そういう事もやっているということで、ひとつまた今後考えていただけたらと思います。質問ですけども、資料⑥でご説明いただきましたが、高砂市のこども園がどんどん増えてきています。一番上のほうに公立幼稚園とありますけども、高砂市、元々民間の幼稚園がなく公立幼稚園で、どんどん認定こども園になっていくなか、結局最後に残ったのが荒井幼稚園ということで、子どもの健康を守る行政と、小学校、中学校、幼稚園と、あと三師会で医師会、歯科医師会、薬剤師会というのが教育委員会という組織があったのですが、どんどん幼稚園が抜けていって、0歳から就学前の子どもたちの健康を行政と園と三師会が密になって相談する場というのがどんどんなくなってきているので、そこを何とか組織立ったものをつくってほしいと思っているのですが、例えば学校保健会というものをもっと大きな規模にするとか、あるいは別の組織をつくるか、その辺何か考えておられることがありましたら教えていただけたらと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。今のご質問に対して、よろしくお願いたします。</p>
<p>子育て支援室長</p>	<p>まず、二点目のところで、資料⑥のところで行政と医師会等の三師会の連携のところ。</p>

	<p>高砂市は幼保連携型認定こども園の推進を行っているということで、今現在幼稚園、保育園を幼保連携型認定こども園に移行していくことを進めている状況ですが、その中で荒井幼稚園だけが残ってしまい、医師会の連携等ができなくなるというような不安材料があるというようなご指摘だったかと思いますが、そのところについては教育委員会等にご指摘もいただきまして、今後も引き続きそういった連携体制が取れるというような組織づくりというのが必要かと考えており、学校保健会のほうについては従来までは公立の幼保連携型認定こども園の場合は入っておりませんでした。そのことについては学校保健会の加入について検討し、加入しているところでございます。今後、公立幼稚園が入っていたそういう連携体制、密にしていた部分について幼保連携型になりますと怠らないような形で、幼稚園であっても保育園であっても幼保連携型認定こども園であっても、従来通り関係機関との連携が密にできるような体制を取って参りたいと思っております。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。ほかに、ご質問ありますでしょうか。よろしいですか。では、次に資料⑨について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>子育て支援課長</p>	<p>【資料⑨の説明】</p> <p>こちらは平成27年度に量の見込みと確保量の計画を立てたものにつきまして、29年度の実績値と比較してもものになります。1点修正で、4-11「妊婦健康診査事業」の表の真ん中、確保の内容のところ「実施体制：妊娠届出書の提出時に、助成券14枚+補助券12枚（計19万円）」とあるのですが、こちらのほうが誤っておりまして、96,000円となっております。</p>
<p>委員長</p>	<p>事務局からの説明が終わりました。ただ今の説明につきまして、ご意見・ご質問等ございましたらお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>4-5の「乳児家庭全戸訪問事業」のことなのですけれども、申し上げるのが恥ずかしいのですが、実は私拒否しているのですね、二人目のとき。というのは、産後2か月で仕事に復帰してフルタイムで働いているお母さんが、家に人が来るというのはものすごく大変で、時間を融通するのも大変で、家を掃除するのももっと大変でということなので、訪問率100%を目指すというのは、子どもさんのためには確かにいいかもしれ</p>

	<p>ないのですが、お母さんにとっては有り難迷惑なことがあって。逆に、でも、ほうっておいたらいいのかというと、そうではないと思いますね。そういうお母さんでも小児科には行っているのですね。子どもが保育園とかに行っていると病気になりますから。あと、予防接種に行っている。だから、例えば連絡のときに、うちは予防接種とか小児科で何々先生のところに行っています。そこから情報を取ってください、というのができるのであれば、お互いに安心感もありますし負担にもならないというので、100%にはならなくても、事前の策としてそういった工夫もあってもいいのかなと思いました。</p>
健康増進課長	<p>先ほど委員が言われたみたいに、非常に大変な時期にお家のほうに行かせていただくということで、2か月、また早い時期に行かせていただくということで、予防接種もかなり早い時期から接種のほうになっております。この、こんにちは赤ちゃん訪問事業につきましては、予防接種の引き換えのほうの手帳も持って行かせていただくということで、今までは取りに来てもらってというような引換券でしていたのですけれども、取りに行くのも大変だろうということで、この事業に合わせて手帳のほうをお届けさせてもらうということも事業の中に盛り込ませていただけるのが一点あります。また、訪問率100%ということにつきましては、このこんにちは赤ちゃん訪問事業の2か月、早い時期にもちろん多くの方に出会いたいというのが担当課としては、希望としてはあるのですけれども、やはり全員の方に同意をいただいているわけでもなく、やはり拒否されている方もいらっしゃいますし、同意をいただいてもいらっしゃらない方や連絡がつかなかった方もやはりいらっしゃいます。ですので、そういう方につきましては、早い時期にお会いしたいということで、次の3～4か月の健診をめぐり、そこでお会いできていない方についてはお会いできたかどうかという確認をまた入れさせていただくと、またそこで未受診の方につきましては、今後訪問と、先ほどおっしゃられました予防接種等、接種をしていっている時期でもあると思いますので、医療機関との連携も取りながら、お元気で過ごされているかということの確認をどこかで100%していきたいということで、この100%を目指すという表現をさせていただいています。</p>
委員	<p>ありがとうございました。そういうのも含めてということならいいと思います。先ほど先生がおっしゃられたように、やはり早い段階で乳児健診があればまた違うサポートもできると思いますので、その辺も併せてまたご検討いただければと思います。</p>

健康増進課長	ありがとうございます。
委員長	はい。ありがとうございました。ほかにありますか。
委員	私も出産してからもう随分たって、この説明を聞かせてもらって、随分出産以降手厚い あれがあるのだなと思ってびっくりしているのですが、保育現場では保育士不足が すごく言われています。こういう訪問事業等があると、保健師さん、助産師さん、母子 保健推進員の方のスタッフというのは十分に足りているのでしょうか。
健康増進課長	スタッフにつきましては、たくさんいればいるほど本当有り難いというふうには思っ ているところですが、現状、子育て世代包括支援センターの設置をさせていただきまし てから、職員のほうも保健師、少しずつですが増員していただいている状況の中で、チ ームの力を合わせて、包括支援センターに関わっているスタッフだけではなく、課とし てこの子育て支援のほう、実施を協力してやっておりますので、これからも頑張っ て事業を推進していきたいと思っております。
委員長	はい。ありがとうございました。ほかにご質問ありますか。はい。ありがと うございました。引き続き、議題を進めて参ります。議題（2）平成30年度スケジュール について、事務局から説明をお願いします。
	（2）30年度スケジュールについて （第2期子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査について）
子育て支援課長	【資料⑩の説明】 ニーズ調査につきましては、子ども・子育て部会に一任していただくような形で考えて おります。
委員長	はい。事務局からの説明が終わりました。ただ今の説明につきまして、ご意見・ご質問 等ございましたらお願いします。
委員	ニーズ調査というものについてなのですけど、昨年度も確かアンケートは取ったと思

	<p>うのですけれど、その違いということと、これもまたお金のことを言って申し訳ないのですけれど、支援プランの策定業務委託料というのが212万8,000円ということで、ニーズ調査にかかるお金が212万8,000円ということなのですけれど、それが郵送料や、回収、分析、調査の委託というようなことで、それだけのお金がかかるのだなというふうに認識したのですけれど、1,500人の方にアンケートをするという、その1,500という数字について、それだけ必要があるのかなということをお尋ねしたいなと思います。整理しますと、昨年度とのアンケートの違い、それから、1,500という数の有効性というか、それを半分に減らしたら、やはりなかなかそれは調査できない、そういう根拠となるもの、それから、212万8,000円というお金、それについてお答え願いたいなと思います。</p>
子育て支援課長	<p>昨年度行いましたアンケートにつきましては、ひとり親家庭の生活についてのアンケートとなっております、対象者をひとり親に限定しておりますので今回と違うのと、また、若者のプランのためのアンケートも昨年行っておりますが、それとも対象者が違うというところで、今年度、このニーズ調査というのは国のほうで必要である調査ということで、行う必要があります。この対象者の人数につきましては、第1回の子ども・子育て会議においての対象者と同様にしておりまして、そのときとの比較をするためにも同人数を今のところ予定をしております。あと、金額につきましては、やはり郵送料ですとか調査、分析等を見込んでの金額ということで、これから業者のほうに応募をしてもらってプロポーザルという形で業者の選定をするような形をしておりますが、その中でこの金額を有効に策定に活用できるように、業者のほうにもいろいろな注文を付けたりとすとか、話を進めていきたいと考えております。以上でございます。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。質問等よろしいでしょうか。引き続きまして、議題(3)のその他ですけれども、次回の第1回子ども・子育て部会と若者部会の日程について調整をさせていただきたいと思いますが、事務局のほうでお願いいたします。</p> <p>(4) その他</p>
子育て支援課長	<p>【次回、子ども・子育て部会、若者部会の日程調整について説明】</p>
委員長	<p>ありがとうございました。議題は以上ですが、ほかにご意見等はありませんでしょうか。</p>

委員	<p>こういう場で言うべきかどうかすごく悩んだのですが、言うところもないので。この子ども・子育て・若者支援プランの計画の趣旨は、子どもの健やかな成長を支えるまち、安心して子育てができるまちを目指していることで、基本目標にもいろいろ出ているのですが、子どもの健やかな成長に向けた教育・保育の充実というようなことで、幼児教育とか学校教育の充実ということも施策としてすごく挙げられています。ちょっと私も調べてみたのですが、高砂市の教育費というのはすごく低いのではないかなと思っています。神戸が16.5、全予算の16.5、近隣の播磨町21.7、稲美町15、姫路が9.6、明石が9.0、加古川が8.7、高砂市がどれぐらいあるのかなと思ったら、昨年度が5.6、今年度ちょっと上がっていて6.1、もう最低ラインです。そして、その中には、例えば今年度でしたら工楽松右衛門邸の維持費というのが2,000万以上で、荒井幼稚園の空調、エアコンが300万以上については、6.1%の中に入っているのではないかなと、その辺りどういうふうになっているか私もよくわかりませんが、教育の予算というのがすごく低いなど。市長さんもこれ実現に向けてやってくださいとあってあいつであったのですが、私たちも、もちろん幼児教育に携わっている高橋委員も私も学校教育に携わっている身として、もちろん子どもたちのために全身全霊あげて努力していていますけれども、それにしても、例えば、文科省のほうだったら1人1台タブレットを皆さんにIT教育で勧めなさいとか、電子黒板にしなさいとか、これも確かな学力につながると思うのですが、本校827人いて、タブレット3台です。前、姫路のほうで校長をしている者にタブレットが足りているかと聞いたときに、全然足りていない、3クラス分しかない、というふうに言っていました。加古川の小学校も余り進んでいないと思うのですが、参観日とか行ったら電子黒板を使ってタブレット使っていますというふうに話をされていました。そんなIT機器というのももちろんそうなのですが、ここにも挙げられているように、やはり配慮を必要とする子どもたちの家庭への支援とか特別支援教育の推進というような話になったときに、やはり人が要るのです。この評価報告にありましたけれど、成果以上に適正な配置というようなことがあって、それでもちょっとずつ学校教育の方が努力されて、一人でも二人でもというふうにして、何とかかんとか学校に回そう、学校を助けようという形で一生懸命されているのですが、いつも言われるのが、お金がなかなか回ってこない。その中でもう本当に頑張ってやっておられる高砂市教育委員会の皆さんに頭が下がる思いなのです。そんな中、私たちもそういうふうにと与えられた人材と施設を活用して、学校の中で、もう本当に今年の夏なんか扇風機2台から生暖かい風がという中で、子どもたち汗水垂</p>
----	---

	<p>らして先生も汗流して、それでも必死に授業やっています。私、本当に涙が出そうなくらい、その中で一生懸命歌ったり発表したりしている子を見て。そして、6.1%という数字を見たときに、もう情けなくてね。これはもうそちらにいらっしゃる事務局の方とかに言う話ではないとは思うのですけれど、委員の皆さんにも委員長さんにも知ってもらいたい話なのです。高砂市がこれだけ一生懸命知恵を絞って施策をして、でも教育にはお金を回さない。市長さんいてほしいなと思いつつ言っていることなのですけれど、もう皆必死なのです。それでも工楽松右衛門邸に2,000万です。必要だと思えないけれど今言ったようにデータの委託事業200万。そんなお金があるのだったら失礼な言い方ですが子どもたちに優先事項とかあるのではないかと。ずっと前からエアコンなどの話をしていても、結局そういう世論がなかったら動かない。今計画を進められているとは思いますが、普通教室だけだというような状況で。私は高砂市全体でやはりもっと考えてもらいたいなと思いつつ、意見として話させてもらいました。別に答えを求めているわけではないのですけれど、ちょっと委員の先生方にもお話ししてもらいたいなと思いつつお話ししました。ありがとうございます。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどの委員の意見と同じような要望になるかもしれないのですが、今回施策評価シートで内部での進行状況ということですが、やはり高砂市、人口が密集しています。2市2町、姫路も入れたら本当にいろいろな町がありまして、いろいろな町がいろいろなことをやっていると思います。やはり取り合いというような形になるのもちょっと気になるのですが、やはり他市ですね、姫路、加古川、本当に隣接しています。他市との比較というのは評価しにくいのですが、周りの他市がやっていることを高砂市しないと、子どもたち、若いお母さん方々出ていってしまうと思います。前回の子ども・子育て会議でも、委員ではなくなりましたが、明石が第二子の保育料を無料化したということで、高砂市はいろいろな社宅がありますけど、社宅を出て住むのだったら明石だね、と。明石に人が集まりすぎて待機児童が増えて大変という、また住みにくくなったというのも聞きますが、うれしいような悲しいような悲鳴かもしれないですね。やはり、少なくとも他市に行くよりも高砂だねと。高砂が元気になれば姫路、加古川も相乗効果で元気になって、東播、西播は兵庫県でも住みやすい、神戸とか大阪よりいいよというふうになっていくかもしれないので、是非他市との比較で、いいところも</p>

	<p>あると思いますし、まだまだできないこともあると思います。そういうのも子ども・子育て会議の評価というのに調べて出していただけたら、またいろいろな参考になると思いますので、また考えていただけたらと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。ありがとうございました。高砂市として、どのように教育を考えていくか、そのときに環境はどうあるべきかということ、やはりいろいろなところから比較、今言われましたけれども、平均的にどうなっているのか、それぞれ地域によって違うと思いますけれども、やはり子どもが必要とするものは必要であるということで、そういったところをよく見て、改善していくという方法で、まず考えていきたいということで、たくさんさんの意見と質問をいただきまして、今後生かしていきたいなというふうに思います。ほかに、もうご意見よろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして、平成30年度第1回高砂市子ども・子育て・若者会議を終了します。本日はありがとうございました。</p> <p>10. 閉 会</p>
<p>子育て支援室長</p>	<p>委員長、委員の皆様、大変遅くまで長時間にわたり、ありがとうございました。たくさんさんの意見をいただきまして、第1回目から。私どもも、これから今年度のこの会議を通じてたくさんさんの施策を進めて参りたいというふうに考えております。これにて閉会をさせていただきます。本日はありがとうございました。</p>